

活動報告

2020年4月-6月期



ミッション

アウトドア アクティビティに情熱を注ぎ、
そのフィールドやライフスタイルを
気候変動から守るために行動する
仲間たちの力となる。



この冬、POW 本部(US)から、ミッション・ステートメントの変更を告げられました。国によって状況や段階が異なるため、活動内容や活動の範囲は基本的にそれぞれの国に委ねられていますが、活動の指針となる「ミッション(使命)」は統一されています。

新しいミッションでは「スノー」から「アウトドア」にフィールドが拡大され、POWの役割は、気候変動を解決するムーブメントをリードする立場から、「行動する仲間たちの力になる」ことを明確にしています。

これは、自然の素晴らしさとその大切さを知るプレイヤーたちの思いと活動がこのムーブメントの主軸となること、そしてPOWは仲間一人ひとりの力がより強く社会で発揮されるために活動する、という新たなステージに進む決意とも言えます。

一人のスノーボーダーの行動から世界中に仲間を増やしてきたPOWのムーブメント。ここからは、その仲間たちの活動を支える側にも力を注いで行く。

私たちPOW Japanは、新しいミッションの達成を目指しながら、仲間を増やし、仲間たちを支え、活動を上げてまいります。
どうかこれからもPOWと共に、自然を守り、雪を守り、冬を守っていきましょう。

Photo : Kenjiro Misuo

2023年に向けての ビジョン

**ビジョン2023は、POW Japanが描く
「スノーコミュニティ・脱炭素社会」と
「組織」の2023年の状態を示し、
私たちはこのビジョンを目指して
活動していきます。**

スノーコミュニティ・脱炭素社会

スキーヤー/スノーボーダーを中心としたアウトドア・アクティビティに情熱を注ぐ仲間たちによる気候変動問題への理解が進み、自らこの問題を発信し、行動を起こしている。再生可能エネルギーへの切り替えなどの脱炭素社会を意識した選択と行動が、スノーコミュニティのスタンダード^{※1}になっている。様々なジャンルやスタイルから構成される滑り手を中心とするアンバサダーたちは、自分起点の主体的活動をする中で、POWと共に問題解決のためのムーブメントをリードしている。また、そうした姿を見ている滑り手たちがインスパイアされて、行動や考え、ライフスタイルを変えるような影響力を持つまでになっている。スノーコミュニティは自分たちがもつ社会の仕組みを変えられる力を信じ、脱炭素社会を実現するために選挙での投票などを通して積極的に政治に参画している。また、国や自治体に対して条例やルールを設けることを働きかけるなど、各地で行政との協働の動きを見せている。こうした滑り手の意識や行動の変化と並行して、スノーリゾートによる気候変動対策も進み、その取り組みは他産業にとってのロールモデルとなっている。

また、POWへの支援や連携による意義やメリットが認識され、パートナー企業は50社を超えている。
こうしたスノーコミュニティにおける気候変動問題に取り

組む機運の高まりによって、アウトドアコミュニティにおいても、自分たちが遊ぶ自然のフィールドを守るという姿勢が共有され、ムーブメントは拡大している。

また、学生向けのプログラム「HOT PLANET COOL ATHLETES」を継続的に実施することで、気候変動問題と向き合う将来世代の輪が広がっていくことに貢献している。

このような活動の積み重ねによって、滑り手は気候変動の問題に熱心に取り組んでいるというイメージが確立されると共に、スノーコミュニティの枠を超えてPOWに対する信頼や期待も高まっている。

組織

多様なスタッフがそれぞれの能力を活かした業務を担い、外部のプロフェッショナルの協力を得て、事務局スタッフだけでは実現が難しい取り組みにもチャレンジできている。また、「気候変動問題から冬を守る」という理念への共感だけでなく、給与や働き方などを含む雇用条件の側面からも魅力的な仕事の選択肢になっている。

3名以上の理事で構成される理事会を設置することで団体の信頼性は高まり、より広範なネットワークが構築されている。POW INTERNATIONALと情報共有が図られ、連携による効果的なプロジェクトも実施できている。また、POW JAPANの活動に関わりたい、貢献したいと思う人たちが活躍できるボランティア制度が整っている。

このような組織を運営する財源(固定費)が十分に確保され、その多くが個人サポーターによる寄付で賄われている。

*1 <https://www.iges.or.jp/jp/pub/15-lifestyles/ja>

*2 使用電力の再生可能エネルギーへの切り替え、照明のLED化や施設の断熱改修などの省エネ、脱プラや食材の域内調達、フードロスの改善などの施設内での取り組み、カーブールパーキングなどによるゲストへの問題啓発など

プロジェクト

1.

Hot Planet Cool Athletes

8月より始動



アスリートが学校を訪問し将来世代に向けて気候変動問題を伝える教育プログラム「Hot Planet Cool Athletes」が2020年8月からスタートします。

自然環境の変化を最前線で見、体感してきたアウトドアスポーツのアスリートが「自分たちが愛するフィールドを守るために行動を起こす」という想いととも、地球温暖化のメカニズムや現在すでに起こっている気候変動問題、そしてその解決に向けた行動や選択について伝えるプログラムです。

一人でも多くの将来世代が気候変動問題に関心を高め、解決に向けて行動できる状態になることを目指します。そして彼・彼女たちと共に脱炭素社会に進んでいく希望を胸にスタートします。

※本プログラムの詳細やお問い合わせ／お申し込みはプロジェクトページ(8月公開予定)をご覧ください。

(右ページ写真)

Hot Planet Cool Athletes 初回開催

プロジェクト始動に先駆けて、6月26日にLoohcs高等学院にて初回開催しました。オープニングムービーと気候変動のスライドに加えて、「自分が大切にすると、それを守るために起こす行動」をテーマにグループワークを実施。自分に身近なテーマを通じて考えることで、何かを守るために行動する大切さが生徒さん達にしっかりと伝わったと感じました。POWの活動への共感や、「自分にできることから行動を起こします」という意見、さらに自ら資料を作成して気候や環境問題について発信することを決めた生徒さんまで現れました。初の学校での開催でしたが手応えを感じ、今後の展開が楽しみです。

今回参加したPOWアンバサダー：小松吾郎(話し手)、佐藤亜耶、大池拓磨



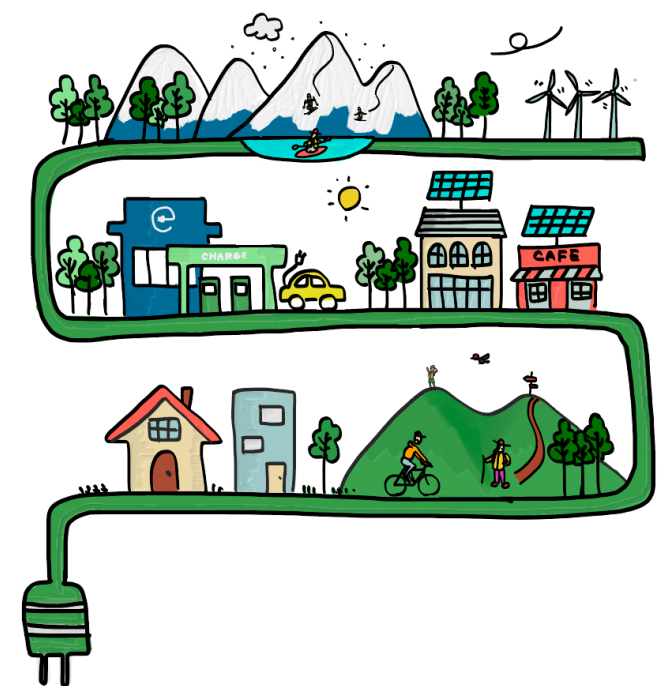
Photo: Yohitomi Shinzou

プロジェクト



**Change is
POWer**

選ぼう、自然のエネルギー



2.

再エネ切り替え キャンペーン

気候変動問題の解決には不可欠なCO2排出量の削減に効果的なアクションとして「再生可能エネルギーへの切り替え」を促すキャンペーン。WEBサイトでは気候変動とどんきの関係や、再生可能エネルギーへ切り替えることでの効果などをイラストともに紹介しています。

キャンペーンの目標は1,000人が再エネへの切り替えを表明してくれること。個人でもできるアクションを実践するきっかけとなり、ムーブメントの輪が広がり気候変動に対するアクションのうねりを作るために目標を設定しました。
(7月31日までに251人が再エネへの切り替えを表明してくれました!)

キャンペーンにご賛同いただいたパートナー企業さまには豪華な特典をご用意ただただだけでなく、再エネへの切り替えを表明してくださった企業さまも少なくありません。ご協力に心から感謝申し上げます。

キャンペーンページ

<https://protectourwinters.jp/change-is-power/>

アンバサダー

AMBASSADOR

新しく5名のアンバサダーが仲間に加わりました！



小野塚彩那 / プロスキーヤー

「この度、Protect Our Wintersのアンバサダーに就任しました、スキーヤーの小野塚彩那です。スキーハーフパイプでX-GAMESでの4度のメダル獲得、2度のオリンピック、世界選手権なども含め世界チャンピオンに4度なったあと2019年にスキーハーフパイプを引退し、現在はFreeride World Tourへの参戦、バックカントリーエリアにフィールドを移し活動をしています。近年よく耳にする地球温暖化というキーワード。物心ついた頃から海外遠征などにも行っていました、目に見えて氷河の減少、近年の気温上昇など明らかに気候変動を肌で感じています。日本でも、私が子どもの頃よりもあきらかに雪の量が少ないと感じています。雪を愛する皆さんの活動は雪がなくては始まりません。POWアンバサダー就任を機に、さらに環境への配慮や意識を高めていけたらと思っています。今後ともよろしくお願い致します。」



河野由貴子 / スノーボーダー

「1972年大阪生まれ。19歳でスノーボードを始め世界を転戦した時期を経て、2004年「LOVE the SNOW Save the Winter!」を合言葉に、“エコ心がけライフ”を実践するマウンテンクリーン活動始める。今は信州野沢温泉の温泉宿・中島屋旅館の若女将。冬は子供たちと滑る時間を幸せに感じつつ、自身も存分に雪と戯れる。四季のある国で雪山を滑ることは、とても特別なことだと思う。この喜びと感謝の気持ちで満たされる瞬間を子供たちとシェアし、孫やその子供達にも永く味わってもらいたいと思う。大自然と共存する私たちはどう行動すべきか?を意識して、気づき・考え・学び・話し合い、そして行動する。POWの仲間とともに、雪を楽しむ暮らしを続けるのが楽しみだ。いつも自然を感じ、心の声に耳を傾けよう!」



河野健児 / プロスキーヤー

「こんにちは。長野県野沢温泉出身の河野健児です。冬はスキーヤー、雪のないシーズンはSUPにサーフィン、キャンプなど四季を通して自然の中で仕事や遊びを楽しんでいます。冬の活動のフィールドである雪山に身を置き、極端な気象状況が多いなと最近特に感じます。今までではあり得ない時期での高温や雨、雪のあまり降らない場所での大雪。また雪のない季節でも極端な気象状況による自然災害が非常に多いことを肌で感じています。自分たちの次の世代、さらにはその先の世代まで地球という素晴らしいフィールドで遊び続けることができるようPOWのメンバーの一人として「自然の中で遊ばせていただいている」という気持ちを持ち続けて活動をして行きたいと思います。」



佐藤亜耶 / プロスノーボーダー

「皆さんはじめまして。この度POW JAPANのアンバサダーになりました、プロスノーボーダーの佐藤亜耶です。私は新潟県出身で、3歳からスノーボードを始め、ハーフパイプとスロープスタイルの大会転戦を経て、今はフリーライディングの魅力にどっぷりハマっています!大学進学のために一度離れた地元で2年前に戻り、再び自然の中での生活を楽しんでいます。秋に紅葉で彩られた景色も、冬になれば白銀の世界。春になれば新緑でいっぱいの山を目の前に見る。夏は川で水遊び。私たちスノーボーダーの主なフィールドは雪山ですが、だからこそ冬だけでなく、四季折々の素敵な景色や、日常の中にあるそれぞれの遊び場も、みなさんと一緒に守っていけるよう、活動してまいります!これからよろしく願いします!」



橋本通代 / プロスノーボーダー

「POW Japanアンバサダーの橋本です!子どもの頃夏休みを過ごした母の故郷・四万十の大自然、スキーを始めて魅了された白馬の雪景色、そしてスノーボードで大冒険したカナダ・ウィスラーの自然。自然が大好きで、いつしか自然と共に生きたいと強く思うようになりました。現在は、軽井沢を拠点に、スノーボード育成の続きの道作りとして、自伐型林業という昔ながらの小さな林業に取り組んでいます。小さい林業もみんなで取り組めば、大きな力になると信じています。POWのみなさんより自然を楽しみながら、前に進んでいきたいです。どうぞよろしくお願いします!」

脱炭素社会へ、地域から変わる

HAKUBAはそのモデルケースになり得るか

事務局長 高田翔太郎



Photo: Sho Fukaya

「POWって白馬の団体でしょ？」

こんな風に思っている方も少なからずいるのではないのでしょうか。実際にそういった反応も耳にしてきました。これはある意味間違っていないし、そう思われるのも当然と言えるくらいにHAKUBAエリア（大町、白馬、小谷）にフォーカスして活動してきました。でも、冒頭の問いかけにはこう答えたい。「うーん、そうとも言えるけど、これからPOWの活動は全国のスノータウンにじわじわと広がっていくよ!」と。

POW JAPANは気候変動という世界が直面している最も深刻な問題の一つに、滑り手のスタンスから取り組んでいます。その活動は二つに大きく分けられます。一つは全国のスキーヤーやスノーボーダー、自然愛好家たちに対して、問題解決に向けてアクションを起こそうと呼びかけること。もう一つは、国や自治体、企業など、社会の仕組みに対して大きな影響力をもつセクターに自分たち（滑り手）の声を反映させて、実際に変化を生み出していくこと。これまでにHAKUABAエリアに焦点を当てて活動してきたのは、後者の成功事例を作るためでもあります。

2019年春以降、POW JAPANのHAKUABAエリアでの活動は多岐に渡ります。シンポジウムや各種イベントの開催、応援署名収集や気候マーチの協力、各スキー場との意見交換や勉強会。こうした活動の積み重ねや、地域の多様な仲間たちとの連携によって、HAKUBAエリアのスキー場による環境の取り組みや、白馬村、小谷村の「気候非常事態宣言」など、地域の変化の兆しは至るところに見られています。

そして、2020年春。コロナ禍で大変な時期にも、さらなる変化に繋がりを

そんな二つの会議が、現在進行中で開催されていて、光栄なことにPOWも委員の一員として参加させていただいています。

一つは、大町市、白馬村、小谷村の三市町村の観光に携わる地域連携DMOである『HAKUBA VALLEY TOURISM (HVT) 内のSDGs委員会』。この委員会ではHAKUBA VALLEY内の行政やスキー場、宿泊飲食店などがエコツーリズムの実践の場として、それぞれができるSDGsの取り組みを検討しています。もちろん、その中核には気候変動の問題解決に繋がる取り組みが据えられています。

もう一つは、『白馬村再生可能エネルギーに関する基本方針等連絡協議会設立準備会』です。とっても長い名前なのですが、簡単に言うと、昨年末に白馬村が出した気候非常事態宣言をいかに具現化していくか、再生可能エネルギーをどう位置付けていくかを検討する委員会です。

HAKUBAではこのように行政、企業、市民団体や学生が連携しながら、地域の脱炭素化を推し進めるプロセスがはじまっています。POWはこれらの動きに伴走しながら、ここで得た知識や経験を、他のスノーリゾートや自治体にも活かしていきたい、そんな風に考えています。

そして、徐々にではありますが、この取り組みの横展開に向けて、北海道や長野、新潟、群馬などのスノータウンの方々とも意見交換や企画検討を進めています。冬を守るために、行動を起こす。そして、さらには地域を変える。そんな思いある全国の滑り手の活動をサポートができるように、まずは白馬からモデルケースを作っていきます。

パートナー企業の取り組み

スノーボード/スキー買取モンスター

MONSTER CLIFF

今回はパートナーのモンスタークリフ株式会社の代表・佐藤敦俊さんにインタビューさせていただきました。

モンスタークリフについて教えてください。

「白馬村をベースにウインタースポーツ用品のリサイクルを行っています。掲げているミッションは三つあって、“ウインタースポーツのゴミを出さない世界を”、“不要な人から、世界中の必要としている人へ”。そして、“ウインタースポーツ用品をもっと身近に”。これらのミッションを果たすために、ウインタースポーツ用品の買取、販売を中心に、スノーボード情報の発信、昨シーズンからはスノーボードの開発、販売もスタートしました。」

気候変動に対して、どんな問題意識を持っていますか？

「雪山に登ったり、自然のフィールドで過ごしていると、雪が減ってるな、とか、暖冬だな、と感じることが年々増えてきています。環境問題と言うと、何から考え、手を付けたいかわからない、ということがあると思うので、自分の中では大好きなウインタースポーツを通じて、どんなことを意識したら良いのか、と常に考えています。また、自分は経験的に知っているので、周りの人たちにも問題意識を持ってもらえるように働きかけることも大事だと思っています。」

環境問題に対して、ビジネスを通して取り組んでいることは？

「リサイクル事業そのものが問題解決のアプローチになると思いますが、例えば、事業所の電気を再生可能エネルギーに切り替えたり、廃棄されたドアをデスクに再利用するなどオフィス家具にもリサイクル品を使っています。また、スタッフの啓蒙も大事だと思っているので、POWの活動報告を共有したり、気候マーチと一緒に参加したり（その時に使用したプラカードもオフィスで飾ってます!）、自転車や相乗りでの通勤も奨励しています。こういった取り組みを楽しみながら実践していくことで、スタッフの変化も感じています。」

スノーボーダーとして、「冬を守るために」できることは？

「スノーボードに行って帰ってくるまでの時間をイメージしてみて…できることとして、結構あると思うんですね。移動手段の相乗りだったり、食事だったり、コンビニでのペットボトルを買わない、とか。山にあがるときに持つバッテリーを再エネで充電してみたり。そういったイメージ出来る行動を全て実践してみたら、スノーボード+αの別の達成感があるんじゃないでしょうか。日々の環境的なアクションって、何でやってるのかわからなくなるときってありますよね。だから、自分の好きなモノと繋がるところでアクションを考えてみたら、興味をもって続けられるのでは。」

Our Partners



BURTON

スノーボード/スキー買取モンスター

patagonia



yukiyama

DIGGIN'MAGAZINE

Full Line



sputnik

BOA

SPACEKEY

SLOPE PLANNING



NSD 白馬観光開発株式会社



GENTEMSTICK

JONES



メディア掲載

・気候ネットワーク通信 第132号(2020年5月1日)

<https://www.kiconet.org/wp/wp-content/uploads/2020/05/NL132.pdf>

・EPIC SNOWBOARDING MAGAZINE

[関東焚火会] EP1: POWってなに!? 小松吾郎 / PROTECT OUR WINTERS

https://youtu.be/BjLaD_JITo4

・アウトドアカルチャーのニュースサイト『Akimama』

POW JAPANが再エネへの切り替えを呼びかけ! Change is POWER キャンペーン実施中(2020年7月3日掲載)

<https://www.a-kimama.com/tozan/2020/07/109372/>

・白馬村の魅力、伝えるサイト『アンテナ白馬』

「【Change is POWER ～選ぼう、自然エネルギー～】POW Japanが仕掛ける、エネルギーシフト促進キャンペーン」2020年7月22日掲載

<https://antenna-hakuba.com/introduce/pow02/>